



# JICグループの投資活動について (2021年度)

|                        |       |       |
|------------------------|-------|-------|
| 1. JICの概要              | ..... | P. 3  |
| 2. JICによる投資の状況（全体像）    | ..... | P. 17 |
| 3. 民間GP運営ファンドへのLP投資の状況 | ..... | P. 24 |
| 4. JIC VGIによる投資活動の状況   | ..... | P. 37 |
| 5. JIC PEによる投資活動の状況    | ..... | P. 66 |

# 1. JICの概要

# 1. (1) JICの概要・投資戦略

|                  |   |
|------------------|---|
| 社名               | 株式会社産業革新投資機構 (Japan Investment Corporation : JIC)   |
| 設立               | 2018年9月   |
| 出資金<br>(資本準備金含む) | 3,804億9,996万7,724円 (2021年1月現在)<br>(うち政府出資3,669億9,996万7,724円、企業出資135億円 (25社) )   |
| 所在地              | 東京都港区虎ノ門1-3-1   |
| 根拠法              | 産業競争力強化法 (平成25年法律第98号)  |
| 取締役              | 代表取締役社長CEO 横尾 敬介<br>取締役CIO 久村 俊幸<br>取締役CSO 福本 拓也<br>取締役CFO 大内 聡<br>社外取締役 榊原 定征 (取締役会議長)<br>社外取締役 岡 俊子<br>社外取締役 小笠原 範之<br>社外取締役 忽那 憲治<br>社外取締役 幸田 博人 |
| 監査役              | 監査役 江戸川 泰路<br>監査役 末岡 晶子   |
| 産業革新投資委員会        | 榊原 定征 (委員長)<br>岡 俊子<br>小笠原 範之<br>忽那 憲治<br>幸田 博人<br>横尾 敬介  |

世界的なDXの潮流\*

国内外の社会課題の解決

## 日本経済の持続的な発展に向けて 日本の産業競争力を強化

産業・経済の新陳代謝が必要  
新たな成長企業の創出や大胆な事業再編

国内の課題

我が国のリスクマネー供給は他国と比較して圧倒的に不足

JICの役割

リスクマネーの好循環を生み出す資金と人材を確保

\* DX : Digital Transformation 企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること  
(出典：経済産業省デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン（DX推進ガイドライン）ver.1.0（2018年12月））

**当社は、オープンイノベーションによる企業の成長と  
競争力強化に対する資金供給を通じて民間投資を促進するとともに、  
投資人材の育成等を行い、  
我が国の次世代産業を支えるリスクマネーの好循環を創出します。**

## (1) 企業の成長と競争力強化に向けたリスクマネーの供給



## (2) 我が国のリスクマネーの好循環創出に向けた基盤づくり





- JICグループの役職員は、高度な倫理観を持って以下の行動規範を遵守し、高いパフォーマンスを発揮することに努めます。
- JICは、認可ファンドに対しても、以下の行動規範を最大限尊重し、行動することを求めます。

誠実さと規律ある行動

Integrity & Discipline

私たちは、政策課題・社会課題の解決に貢献する投資機関として、公共的使命を担っていることを自覚し、全ての企業活動において、高い自己規律を持って、公正かつ誠実な姿勢で臨みます。

卓越した専門家としての矜持

Excellence & Professionalism

私たちは、プロフェッショナルとしての責任と誇りを持ち、高い専門性を発揮して業務にあたり、ミッションの達成に貢献します。

責務の遂行と結果に対する説明責任

Accountability & Responsibility

私たちは、一人ひとりが自身の役割を理解し、行動や結果に責任を持ち、透明性の高い企業活動を行います。

相互の信頼とチームワークに基づく  
成果の最大化

Respect & Teamwork

私たちは、ミッションの達成に向けて、多様な考え方を互いに尊重しながら知恵を結集し、チームとして力を発揮します。

- JICは、産業競争力強化法に基づく「株式会社産業革新投資機構投資基準」（平成三十年経済産業省告示第百九十四号）に基づき、投資を行います。
- 上記の投資基準においては、以下4つの重点投資分野が掲げられており、ファンドへの出資を通じて、これらの分野へのリスクマネーを供給することにより、我が国におけるオープンイノベーションを推進し、我が国の産業競争力の強化と投資エコシステムの拡大に貢献します。

## 重点投資分野

Society  
5.0

### Society5.0に向けた 新規事業の創造の推進

事業者にとって不確実性が高い非連続的な成長が必要であり、長期かつ大規模なリスクマネー供給を必要とする新規事業の創造に係る事業分野を支援



### ユニコーンベンチャー の創出

グローバルな経済圏において競争力をもって持続的に成長することを目標とするユニコーンベンチャーを創出



### 地方に眠る 将来性ある技術の活用

高い収益が期待できる技術力が多数あるにもかかわらず十分に活用されていない地方の大学発ベンチャー等の資金需要に対応

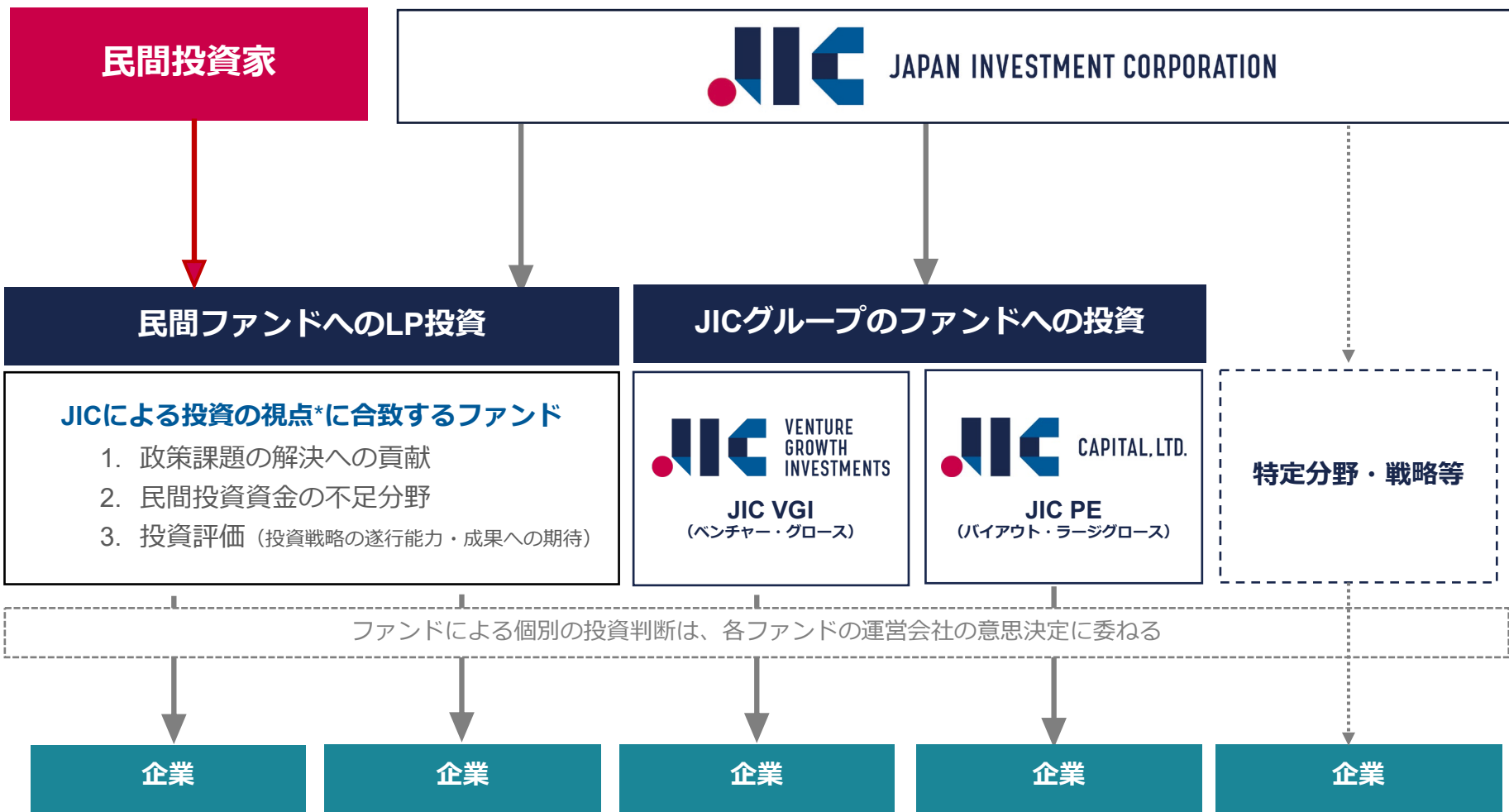


### 産業や組織の枠を 超えた事業再編の促進

国際競争力を持ちうる事業分野において、オープンイノベーションに向けた大胆な事業再編を通じて産業競争力の強化を支援

我が国におけるオープンイノベーションを推進し、  
我が国産業の競争力強化に貢献

- JICは、経営理念に基づき、民業補完の原則の下、ファンドへの投資を通じて、オープンイノベーションによる企業の成長と競争力の強化に向けたリスクマネー供給を行います。



\*上記視点に加えて、募集状況、ファンド（運用者）の成長段階、JICの役割・ポートフォリオ等の観点を総合的に勘案する。

# 1. (2) リスクマネー好循環創出に向けた基盤づくり

## 我が国のリスクマネーの好循環創出に向けた基盤づくり

- JICは、我が国のリスクマネー供給を質量ともに充実させ、次世代産業を支えるリスクマネーの好循環を創出するため、以下のような役割を果たすことを目指す。
  1. 民間投資の「呼び水」としての役割
  2. 投資知識の「プラットフォーム」としての役割
  3. 投資人材等を「育成」する役割



- ◇ JICとして**投資知識のプラットフォーム**としての役割を果たしていくことを目指す。
  - 投資対象や投資戦略の異なる多様なファンド創出を促し、投資に関心のある企業および人材に**多様性のある投資機会を提供**。
  - JICが投資したファンドとともに、投資分野および手法に関する経験・知見を蓄積し、また投資家、企業団体、学術研究機関等とのネットワークを構築し、**組織横断的な人材と情報の流通を促進**。
  - 経済産業省はじめ諸省庁や公的機関との対話を行い、政策目標の設定ならびに投資成果の評価を実施。また、調査・分析機能を強化し、ファンド投資に役立てるとともに、投資の過程で得られた知見や政策ニーズをフィードバック。これらにより、**政策と投資の好循環を創出**。

- ◇ JICとして我が国のリスクマネー供給を担う**投資人材等の育成**に貢献していくことを目指します。
  
- JICが主体的に設立するファンドの投資チームが、投資により社会的課題の解決を図りながら、民間資金を受託する能力を高め、**今後の我が国のリスクマネー供給を担う人材としての成長を支援**。
  
- JICがLP出資する民間ファンドに対しては、**投資家（LP）としてフィードバック**を行い、財務リターンを追求しながら、産業競争力の強化にも貢献できる**民間投資チームの成長プロセスを後押し**。
  
- 民間ファンドや関連団体等とも連携し、投資実行や価値創造のスキルとともに、ファンドの投資戦略立案、管理および評価等の**様々なスキルをもつプロフェッショナルの育成をサポート**。

◇ 今後、JICとして、投資先ファンドとともに民間事業者や関係団体、政府等とも連携して、リスクマネー供給の好循環創出の基盤づくりに取り組んでいく。

1. ファンド運用者と機関投資家のリンケージ強化のための活動
2. ファンド運用者が抱える共通の課題に関する勉強会やネットワーク等
3. 調査・ナレッジマネジメント機能
  - リスクマネーの好循環に資する情報・知識の分析、発信
  - 産業の競争力強化や関連施策に関する調査機能の強化
  - 海外市場やVC・PE投資の動向に関する情報収集・意見交換 等
4. VC、PE投資におけるESG・SDGsに関する情報収集・意見交換
5. GP・LP投資人材の育成
  - 機関投資家、民間事業者等との人事交流
  - 研修等の実施 等



## 2. JICによる投資の状況（全体像）

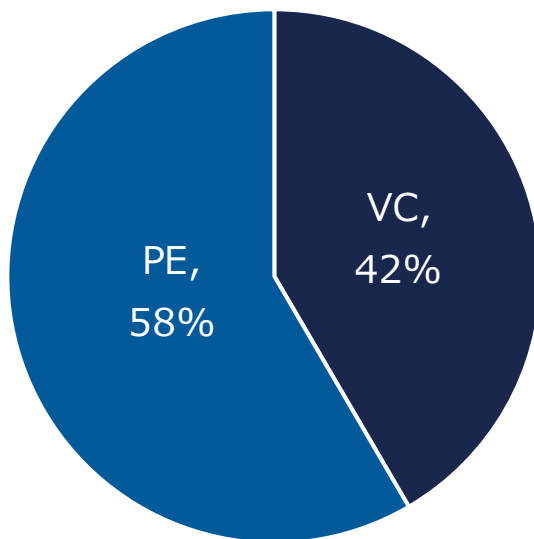
## 【ファンド投資の概況】

(2022年3月末時点)

|                        | 投資決定件数 | 出資約束額   | 払込済金額 | 進捗率   |
|------------------------|--------|---------|-------|-------|
| 合計                     | 14     | 4,006億円 | 902億円 | 22.5% |
| うちJIC子会社がGPとして運営するファンド | 2      | 3,200億円 | 624億円 | 19.5% |
| うち民間GPが運営するファンド        | 12     | 806億円   | 277億円 | 34.4% |

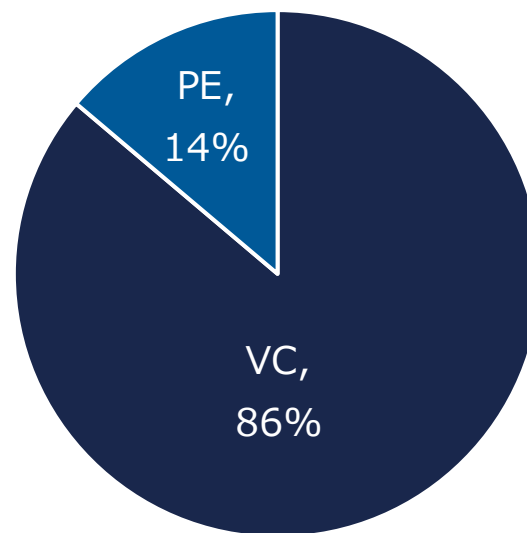
(注) 払込済金額には追加出資手数料等を含む

出資約束額



(2022年3月末時点)

払込済金額



(2022年3月末時点)

| 公表日                        | ファンド名                                | JIC投資額<br>(コミットメント額) | ファンド概要   |
|----------------------------|--------------------------------------|----------------------|--|
| <a href="#">2020年7月8日</a>  | JICベンチャー・グロース・ファンド1号<br>投資事業有限責任組合   | 1,200億円              | ベンチャー・グロース領域に十分なリスクマネーを供給し、呼び水効果、業界連携、オープンイノベーション促進による日本の国際競争力向上、産業及び社会の課題解決を企図            |
| <a href="#">2020年9月9日</a>  | JIC PEファンド1号<br>投資事業有限責任組合           | 2,000億円              | 大規模・長期・中立的なリスクマネー供給を通じて、Society 5.0の実現に向けた新規事業・新産業の創造、国内産業の国際競争力強化、業界の再編を企図                |
|                            | JIC PE共同投資ファンド1号<br>投資事業有限責任組合       | 2,000億円              | 国際競争力強化に向けた大規模な事業再編に際して、JICとの共同投資を実施   |
| <a href="#">2020年12月8日</a> | Beyond Next Ventures2号<br>投資事業有限責任組合 | 40億円                 | 医療・ヘルスケア分野をはじめ大学・研究機関・企業の有する優れた技術シーズの事業化に注力。産学連携による技術系スタートアップへのインキュベーション投資を実施              |
| <a href="#">2021年2月26日</a> | Catalys Pacific Fund, LP             | 30百万米ドル              | 国内製薬会社や大学等から化合物を導入し、グローバルでの開発を実施。創薬ベンチャーとの協業によるオープンイノベーション創出についての知見共有や人材育成により創薬エコシステム醸成に寄与 |

| 公表日                         | ファンド名                       | JIC投資額<br>(コミットメント額) | ファンド概要  |
|-----------------------------|-----------------------------|----------------------|---|
| <a href="#">2021年4月19日</a>  | ANRI 4号投資事業有限責任組合           | 29.5億円               | ディープテック領域やインターネットとディープテックの融合領域にリスクマネーを供給。研究開発型ベンチャーに対する人材面での支援を行うほか、女性キャピタリストや女性起業家の育成を通じたエコシステムのダイバーシティ推進も企図         |
| <a href="#">2021年5月7日</a>   | みやこ京大イノベーション2号投資事業有限責任組合    | 41億円                 | アカデミア発ディープテックベンチャーにリスクマネーを供給。Society5.0の実現に向けた高度な専門技術の開発や社会実装を支援。各地の大学との連携により、地方に眠る将来性ある技術の活用と技術系スタートアップのエコシステム醸成にも貢献 |
| <a href="#">2021年12月3日</a>  | DRONE FUND3号投資事業有限責任組合      | 30億円                 | 世界でも珍しいドローン・エアモビリティ特化型VC。ハード・ソフト両面に加え、ドローン関連サービスや、ドローンに応用可能なテクノロジーの開発・提供を支援。地方発の案件発掘にも注力                              |
| <a href="#">2021年12月13日</a> | UC ヘルスケア・プロバイダー共同投資事業有限責任組合 | 240億円                | 地域の医療機関やヘルスケア事業者に対する支援を行うとともに、各関係機関の連携を図り、ヘルスケア業界における生産性の向上と、質の高いヘルスケアの効率的な提供に寄与。国内初の総合ヘルスケア・プロバイダーの創出を目指す            |

| 公表日                         | ファンド名                                   | JIC投資額<br>(コミットメント額) | ファンド概要  |
|-----------------------------|---|----------------------|---|
| <a href="#">2021年12月24日</a> | Sozo Ventures III, L.P.                 | 50百万USD              | 北米の有カスタートアップに対する投資と、日本の事業会社に対する事業提携の機会の提供等を主軸とした投資戦略。米国内外のスタートアップ、ベンチャーエコシステム、アカデミアに深いつながりを持ち、スタートアップの国際展開支援に取り組む   |
| <a href="#">2022年1月26日</a>  | ANRI-GREEN 1号投資事業<br>有限責任組合             | 30億円                 | 先行投資と長期の運用を伴う、Climate Tech領域のディープテック・スタートアップへ投資。同領域における民間投資資金の流入や、産業の育成、アカデミア発のスタートアップへの支援を通じた研究開発や社会実装の推進を企図   |
| <a href="#">2022年1月31日</a>  | Genesisia Venture Fund 3号<br>投資事業有限責任組合 | 55億円                 | 国内の独立系VCとして、プレシード/シード期のスタートアップに積極的に投資。東南アジアの日系企業と現地スタートアップとの提携支援等に取り組む数少ないファンドの一つ。現地のスタートアップエコシステムに参入し、業務提携や資本提携を締結させるなどの実績を有する   |
| <a href="#">2022年3月7日</a>   | WiL Ventures III, L.P.                  | 100百万USD             | 東京と米国シリコンバレーに拠点を有し、国内外の有望なスタートアップに投資。国内事業会社等への啓蒙・支援活動を通じてオープンイノベーションの促進を図ると共に、海外の拠点・ネットワークを活用し、国内事業会社等と海外スタートアップとの事業提携等の創出を図る。また、国内投資先に対する海外展開支援等により、日本発ユニコーン企業の創出にも取り組む。 |

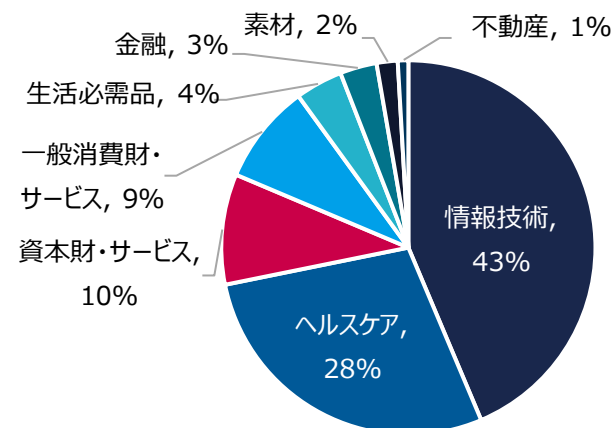
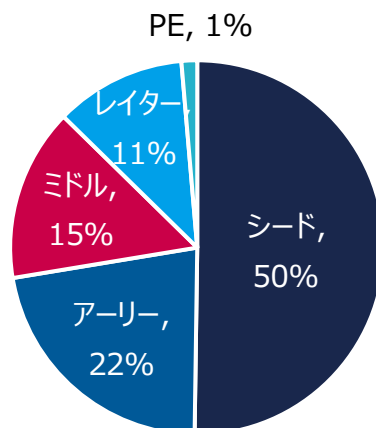
| 公表日                        | ファンド名                             | JIC投資額<br>(コミットメント額) | ファンド概要   |
|----------------------------|-----------------------------------|----------------------|--|
| <a href="#">2022年4月5日</a>  | IAパートナーズ1号投資事業<br>有限責任組合          | 100億円                | 主にエレクトロニクス、化学、ヘルスケア、物流および消費財等の中堅企業を対象としたカーブアウト・ロールアップを主軸とした投資戦略。日本が国際競争力を持ちうる事業分野における、既存企業による産業や組織の枠を超えた事業再編に取り組む。 |
| <a href="#">2022年4月15日</a> | QB第二号投資事業有限責任組合                   | 25億円                 | 九州を中心として、九州大学ほかの地方大学との関係を築き、連携を強化することで、地方に眠る技術シーズの掘り起こしに積極的に取り組み、地方大学発の技術系スタートアップに対する投資を実施。                        |
| <a href="#">2022年5月11日</a> | DIMENSION2号投資事業有限責任組合             | 30億円                 | デジタルビジネス、ヘルスケア、ディープテック等の領域のスタートアップに投資。MBOやスピンアウトによるスタートアップの設立支援など、オープンイノベーションの促進、新規事業の創造にも取り組む。                    |
| <a href="#">2022年6月10日</a> | Apricot Venture Fund 2号投資事業有限責任組合 | 20億円                 | プレシード/シード期のスタートアップへの投資に注力し、新規事業にチャレンジする起業家を積極的に支援。デジタル技術を中心に、Society 5.0に向けた新規事業・新産業の創造に資する分野への投資にも取り組む。           |

| (2021年12月末時点) | 投資件数 | 投資額   |
|---------------|------|-------|
| 全投資先ファンド      | 221  | 595億円 |
| うちJIC VGF1    | 30   | 424億円 |
| うち民間ファンド      | 191  | 171億円 |

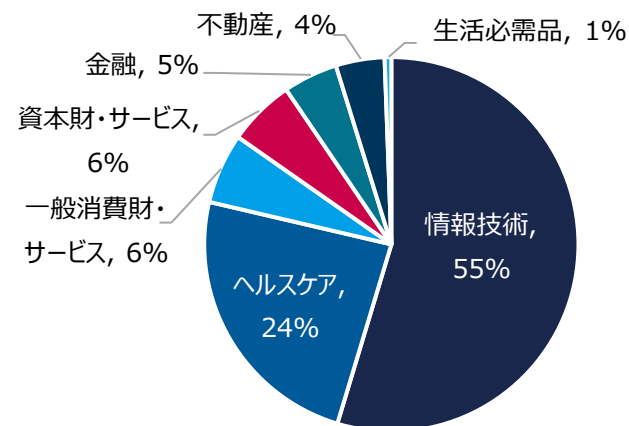
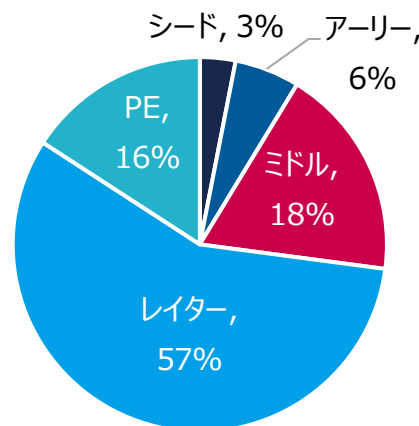
## ステージ別

## 業種別

**投資件数**  
(2021年12月末時点)



**投資額**  
(2021年12月末時点)



### 3. 民間GP運営ファンドへのLP投資の状況



## ANRI 4号投資事業有限責任組合



|                              |   |
|------------------------------|---|
| 投資決定公表日                      | 2021年4月19日  |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 29.5億円  |
| ファンド総額                       | 250億円   |
| 主な共同出資者                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アサヒグループホールディングス株式会社</li> <li>・ グリー株式会社</li> <li>・ 第一生命保険株式会社</li> <li>・ 株式会社ミクシィ</li> <li>・ 株式会社みずほ銀行</li> </ul>   |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な投資対象：ディープテック領域およびインターネットとディープテックの融合領域</li> <li>・ 革新的な研究・技術の事業化を実現するために、起業家の経営者としての資質を見極めるとともに、投資後にも適切な企業傾斜の招聘を行うなど、研究開発型ベンチャーに対して人材面でも支援</li> <li>・ 投資額の2割を女性起業家発ビジネスに割り当てる等、女性起業家の数が圧倒的に少ない等の国内ベンチャーエコシステムにおけるダイバーシティの課題にも取り組み</li> </ul> |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ディープテック領域及びインターネットとディープテックの融合領域へのリスクマネー供給の促進及び新産業・新規事業の創出</li> <li>・ 国内ベンチャーエコシステムにおけるダイバーシティの推進への貢献</li> <li>・ 投資チームが将来、機関投資家等からの資金受託を拡大できるようJICによる支援を実施</li> </ul>   |

## みやこ京大イノベーション2号投資事業有限責任組合

MIYAKO  
CAPITAL

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 投資決定公表日                      | 2021年5月7日   |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 41億円  |
| ファンド総額                       | 142.1億円   |
| 主な共同出資者                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽石油株式会社</li> <li>第一生命保険株式会社</li> <li>みずほ証券株式会社</li> <li>株式会社三菱UFJ銀行</li> <li>独立行政法人中小企業基盤整備機構</li> </ul>  |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>主な投資対象：アカデミア発ディープテックVB（ベンチャービジネス）</li> <li>京都大学より認定を受けた民間ファンドとしてアカデミア発ディープテックVBに対して重点的に投資</li> <li>京都大学を中心に首都圏以外の大学等との連携を強化し、地方に眠る技術シーズを積極的に掘り起こし</li> <li>グローバルな投資・成長支援の経験を豊富に持つメンバーを擁し、投資先 VB の海外展開の積極的な支援を可能とする体制を整備</li> </ul> |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>アカデミア発ディープテック VB に対するリスクマネー供給の促進</li> <li>地方における技術系スタートアップのエコシステム醸成への貢献</li> <li>投資チームが将来、機関投資家等からの資金受託を拡大できるようJICによる支援を実施</li> </ul>  |

## DRONE FUND3号投資事業有限責任組合



|                              |   |
|------------------------------|---|
| 投資決定公表日                      | 2021年12月3日  |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 30億円  |
| ファンド総額                       | 105億円   |
| 主な共同出資者                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>独立行政法人中小企業基盤整備機構</li> <li>九州旅客鉄道株式会社</li> <li>株式会社NTTドコモ</li> <li>SMBC日興証券株式会社</li> <li>ソフトバンク株式会社</li> </ul>  |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>主な投資対象：ドローン・エアモビリティ特化型VCとして、ハード・ソフト両面に加えて、ドローン関連サービスや、ドローンに応用可能なテクノロジーに対する投資</li> <li>新しいテクノロジーの社会実装を加速させるため、機体やサービス、関連技術など、スタートアップ・エコシステムの形成を進めていく</li> <li>地方発の案件発掘に注力</li> <li>ESG 投資の視点からスタートアップへの支援を行うことにより、SDGs（持続可能な開発目標）の実現を目指す</li> </ul> |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>次世代ドローン・エアモビリティ分野へのリスクマネー供給の促進</li> <li>ドローン技術の社会実装推進により、既存産業が抱える社会課題の解決やSociety 5.0の実現に貢献</li> <li>地方へのリスクマネーの供給拡大により、地方のベンチャーエコシステム醸成に貢献</li> </ul>  |

## UCヘルスケア・プロバイダー共同投資事業有限責任組合



|                              |  |
|------------------------------|--|
| 投資決定公表日                      | 2021年12月13日  |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 240億円  |
| ファンド総額                       | 300億円  |
| 主な共同出資者                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>非公表</li> </ul>  |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>主な投資対象：地域の医療機関、調剤薬局、在宅系サービス事業者</li> <li>国内初の総合ヘルスケア・プロバイダーの創出を目指し、地域の医療機関、調剤薬局、在宅系サービス事業者に対する投資を行い、各関係機関の連携を図りつつ、ヘルスケア提供者の勤務環境を整備し、生産性の向上と、質の高いヘルスケアの効率的な提供を行う</li> </ul> |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>Society5.0時代のヘルスケア産業に向けた新規事業の創造の推進</li> <li>我が国初の総合ヘルスケア・プロバイダーとしてのロールモデルの創出</li> <li>ヘルスケア産業における民間からのリスクマネー調達促進のための「呼び水効果」</li> </ul>                                    |

Sozo Ventures III, L.P.

## SOZO VENTURES

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 投資決定公表日                      | 2021年12月24日   |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 50百万USD   |
| ファンド総額                       | ・ 非公表   |
| 主な共同出資者                      | ・ 非公表   |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な投資対象：北米のVCの投資先であるスタートアップ</li> <li>・ 北米のVCの投資先であるスタートアップに対する投資と、日本の事業会社に対する事業提携の機会の提供等を主軸とした戦略</li> </ul>   |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本企業と北米スタートアップとの事業提携等の機会提供</li> <li>・ 北米のスタートアップとの連携によるオープンイノベーションの促進とSociety5.0に向けた新規事業の創出</li> <li>・ 日本企業との事業提携等を戦略とする北米ファンドマネージャーの育成</li> </ul> |

## ANRI-GREEN 1号投資事業有限責任組合



|                              |   |
|------------------------------|---|
| 投資決定公表日                      | 2022年1月26日  |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 30億円  |
| ファンド総額                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>100億円 (予定)</li> </ul>  |
| 主な共同出資者                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>K4 Ventures 等</li> </ul>   |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>主な投資対象：Climate Tech 領域のディープテック</li> <li>気候変動や環境問題に対応するディープテックを投資対象としたファンドとして組成し、存続期間も12年（3年間の延長可能）とすることで、産学連携案件を中心とするシード、アーリーステージのディープテック・スタートアップへの投資を可能としている</li> </ul> |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>Climate Tech領域への民間の投資資金の流入促進と同領域における産業の育成</li> <li>アカデミア発のシード、アーリーステージのディープテック・スタートアップの支援</li> <li>長期かつ大規模な投資が必要となる領域へのリスクマネー供給</li> </ul>                               |

## Genesisia Venture Fund 3号投資事業有限責任組合 Genesisia Ventures

|                              |  |
|------------------------------|--|
| 投資決定公表日                      | 2022年1月31日   |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 55億円   |
| ファンド総額                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>150億円 (予定)</li> </ul>   |
| 主な共同出資者                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社オリエンタルランド・イノベーションズ</li> <li>CVCF2投資事業有限責任組合</li> <li>グリーン株式会社</li> <li>みずほキャピタル株式会社</li> <li>株式会社みずほ銀行 等</li> </ul>         |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>主な投資対象：プレシード/シード期のスタートアップ</li> <li>東南アジア現地のスタートアップエコシステムに参入するなど、日系企業と現地スタートアップとの提携支援等に取り組む</li> </ul>                           |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>東南アジアのスタートアップと連携した新規事業の創造の推進</li> <li>ユニコーン企業の創出に向けたプレシード/シード期のスタートアップ支援</li> <li>「呼び水」効果によるリスクマネー供給の拡大、エコシステム構築への貢献</li> </ul> |

WiL Ventures III, L.P.



|                              |  |
|------------------------------|--|
| 投資決定公表日                      | 2022年3月7日  |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 100百万USD   |
| ファンド総額                       | ・ 非公表  |
| 主な共同出資者                      | ・ 非公表  |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>国内事業会社等への新規事業の創出に関する積極的な啓蒙・支援活動を通じて、自発的なオープンイノベーションの促進を図ると共に、シリコンバレーに有する拠点・ネットワークを活用し、国内事業会社等と北米の将来性の高いスタートアップとの事業提携等の創出</li> <li>国内スタートアップへの投資については、アーリーからミドル・レイターまでのマルチステージで一貫した成長資金を供給しつつ、投資先スタートアップに対して北米を中心とした海外展開支援を行うことで、国内発のユニコーン企業の創出</li> </ul> |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>国内事業会社等のオープンイノベーションの促進とそれを通じた新規事業の創造</li> <li>北米を中心とした海外展開支援を行うことで、国内発のユニコーン企業の創出を推進</li> <li>日米を繋ぐグローバルファンドマネージャーの育成</li> </ul>  |



## IAパートナーズ1号投資事業有限責任組合



|                              |   |
|------------------------------|---|
| 投資決定公表日                      | 2022年4月5日   |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 100億円   |
| ファンド総額                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>400億円 (予定)</li> </ul>  |
| 主な共同出資者                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社三井住友銀行 他</li> </ul>  |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>民間のバイアウト資金が不足している製造業等の中堅企業、グローバル ニッチトップ企業を対象としたカーブアウト・ロールアップ戦略を主軸</li> </ul>   |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>国際競争力を持ちうる事業分野において、産業や組織の枠を超えた事業再編を促進</li> <li>製造業等のカーブアウト・ロールアップ戦略*を主とする民間のバイアウトファンドや同戦略に沿った投資機会の創出</li> <li>国内外の機関投資家からのリスクマネー調達の促進</li> </ul> <p>*複数の企業から事業を切り出し、経営資源を統合することで、シナジー効果による企業価値向上や業界再編を目指す。</p> |

## QB第二号投資事業有限責任組合



|                              |  |
|------------------------------|--|
| 投資決定公表日                      | 2022年4月15日   |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 25億円   |
| ファンド総額                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>約70億円</li> </ul>  |
| 主な共同出資者                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社NCBベンチャーキャピタル</li> <li>上村建設株式会社</li> <li>岡部産業株式会社</li> <li>九州総合信用株式会社</li> <li>株式会社九州リースサービス</li> <li>株式会社九電工</li> <li>株式会社システムソフト</li> <li>株式会社シティアスコム</li> <li>株式会社新出光</li> <li>ZFP 第1号投資事業有限責任組合</li> <li>株式会社ゼンリン</li> <li>株式会社西日本シティ銀行</li> <li>福岡酸素株式会社</li> <li>福岡地所株式会社</li> <li>株式会社フジコー</li> <li>増田石油株式会社</li> <li>三菱UFJキャピタル株式会社</li> <li>株式会社三好不動産</li> <li>株式会社ゆうちょ銀行</li> </ul> |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地方に眠る技術シーズの掘り起こしに積極的に取り組み</li> <li>九州地域をはじめとする地方大学発ベンチャーへの積極的な投資を実行し、地域発イノベーションの創出</li> </ul>   |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>地方に眠る将来性ある技術の活用を積極的に支援</li> <li>Society5.0に向けた新規事業創造のためのリスクマネーの供給</li> <li>地方大学発スタートアップを取り巻くベンチャーエコシステムの強化</li> </ul>   |

## DIMENSION2号投資事業有限責任組合

## DIMENSION

|                              |  |
|------------------------------|--|
| 投資決定公表日                      | 2022年5月11日   |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 30億円   |
| ファンド総額                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>約100億円 (予定)</li> </ul>  |
| 主な共同出資者                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>S M B C日興証券株式会社</li> <li>株式会社日本M&amp;Aセンター</li> <li>株式会社CARTA HOLDINGS</li> <li>ICCパートナーズ株式会社</li> <li>リコーリース株式会社</li> <li>株式会社ロイヤリティ マーケティング</li> <li>グローウィン・パートナーズ株式会社</li> </ul> |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルビジネス、ヘルスケア、ディープテック等の領域で事業を手掛けるスタートアップに投資</li> <li>インターネット・デジタルビジネス領域におけるスタートアップに対する成長支援の知見・ノウハウが豊富</li> </ul>   |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"> <li>Society 5.0に向けたディープテック領域における新規事業創造の推進</li> <li>MBOやスピンアウトを活用した国内事業会社等のオープンイノベーションの促進</li> <li>機関投資家からの資金調達拡大</li> </ul>   |

## Apricot Venture Fund 2号投資事業有限責任組合



|                              |   |
|------------------------------|---|
| 投資決定公表日                      | 2022年6月10日  |
| JIC投資額<br>(コミットメント額)         | 20億円  |
| ファンド総額                       | ・ 非公表   |
| 主な共同出資者                      | ・ 非公表   |
| 主な投資対象・投資戦略                  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 主な投資対象：プレシード／シード期のスタートアップ</li><li>・ デジタル技術を中心に、Society 5.0 に向けた新規事業・新産業の創造に資する分野にも投資</li></ul>            |
| JICによるLP投資の目的<br>(投資基準への適合性) | <ul style="list-style-type: none"><li>・ ユニコーン企業の創出に向けたプレシード／シード期のスタートアップ支援</li><li>・ Society5.0に向けた新規事業の創造の推進</li><li>・ 機関投資家からの資金調達の拡大</li></ul> |

## 4. JIC VGIによる投資活動の状況

# (1) JIC VGI概要①

|                      |   |
|----------------------|---|
| 投資決定公表日              | 2020年7月8日   |
| ファンド                 | ・ JIC ベンチャー・グロース・ファンド 1 号投資事業有限責任組合 (VGF1)  |
| 無限責任組合員 (GP)         | ・ JIC ベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社 (VGI)   |
| 有限責任組合員 (LP)         | ・ 株式会社産業革新投資機構 (JIC)<br>・ VGF1 役職員投資事業有限責任組合 (VGF1 役職員組合)   |
| 主な投資対象・投資戦略          | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 日本の新産業創出に向けて、ベンチャー・グロース投資領域においてリスクマネーが不足している産業分野を見極め、投資領域を設定</li><li>・ 投資基準に基づき「産業競争力の強化又は社会課題の解決」「成長性」「革新性」の観点から投資を検討</li><li>・ 主な投資領域としては、以下に掲げる産業分野での投資に重点的に取り組む<ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報通信</li><li>2. 金融 (フィンテック、セキュリティ技術等含む)</li><li>3. 運輸・小売</li><li>4. 製造業</li><li>5. サービス業</li><li>6. 教育・医療・福祉サービス業 (介護、保育等を含む)</li><li>7. ヘルスケア (ICT ヘルスケア (ハード/ソフト含む)、検査機器等を含む)</li><li>8. 健康医療 (創薬・医療機器等を含む)</li><li>9. 教育 (保育/EdTech 等含む)</li><li>10. 建設・ユーティリティ</li><li>11. 素材化学</li><li>12. 一次産業 (農業、食品等含む)</li><li>13. 新産業 (宇宙、量子、ディープテック等含む)</li><li>14. その他、日本の産業競争力強化に資する領域</li><li>15. その他、日本の社会課題解決に資する領域</li></ol></li></ul> |
| JIC投資額<br>(コミットメント額) | 1,200億円   |
| 期間                   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 運営期間： 12年</li><li>・ 投資期間： 5年 + 延長2年(LP同意の場合)</li><li>・ 運営期間延長： 1年(LP同意の場合、設立後～最大2033年12月迄)</li></ul>  |

## 政策目標

(1) 投資によって達成を目指す政策目標

- ① Society5.0 に向けた新規事業の創造の推進
- ② ユニコーンベンチャーの創出
- ③ 地方に眠る将来性ある技術の活用

(2) エコシステムに対する貢献

- 新たな技術や事業が産業及び社会へ実装されるよう、一社や既存産業の枠組みを超えたイノベーションの成果が波及することを通じてイノベーションを創出の好循環を目指す
- 大企業、民間VC、大学及び研究機関等の関係各所と積極的に連携し、人材の流動化・イノベーションエコシステムの構築を目指す
- 多様な投資人材を発掘・育成し、厚みと多様性あるエコシステムの構築に寄与する

## 収益目標

- VGF1の収益目標は、ネットIRR10%程度、ネットMoC1.5程度を目指す
- VGF1は、我が国の産業政策に沿った新産業創出と収益目標を両立させるために長期投資を行う
- 産業育成のミッションを完遂するため、民間ではリスクを取り切れない産業領域についても投資を行うため、民間ファンドと同様なリスク・リターンの評価手法は念頭に置きながらも、VGF1のパフォーマンス評価は前述の通り政策の実現性と収益の実現で評価する

## ガバナンス

- 投資委員会：JICが毎回オブザーバー参加し、ファンドの投資基準との整合性を確認
  - 投資ガイドライン：LPコミット総額の10%以上となる投資等は、LPの承認が必要
  - レポーティング：四半期毎に財務諸表、投資先企業概況等をJICに報告
  - 報酬設計：JIC VGIの報酬は、基本給（年俸）及び年度賞与で構成されており、当該合算額が、株式会社産業革新投資機構の業務執行取締役の報酬総額（年額報酬及び特別手当の合算額）の上限を超えない範囲で設計されている
- ※その他、ファンドの収益に連動した長期業績連動報酬制度を設けており、ファンド全体で投資元本（運営コストを含む）を上回る回収益が発生した場合に限り、回収益の2%の範囲内で、JIC VGIの役職員が自己投資をした場合に限り、其々の自己投資額に応じた報酬を支給することとしている

(2021年度の取締役及び監査役の報酬等の額)

| 区分  | 支給人数 | 報酬等の額     | 摘要 |
|-----|------|-----------|----|
| 取締役 | 4人*  | 98,072千円* |    |
| 監査役 | 1人   | 7,000千円   |    |
| 計   | 5人   | 105,072千円 |    |

\*JIC取締役と兼職する取締役2名については、JICからの2021年度の報酬等の額を計上

## 管理報酬

- VGIの各年度の予算に基づき、LPの承認（出資額による過半数）により決定



## 1. ファンドの状況

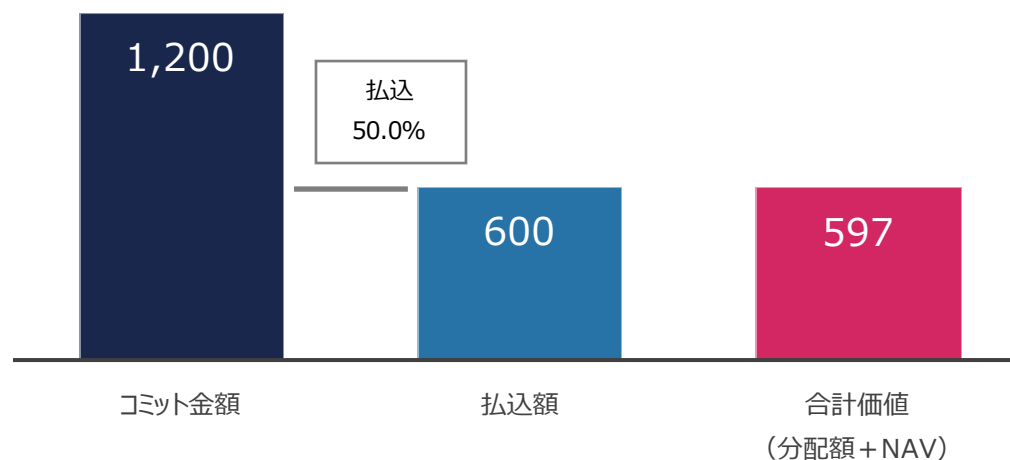
|       |            |        |         |
|-------|------------|--------|---------|
| コミット日 | 2020年9月18日 | コミット金額 | 1,200億円 |
|-------|------------|--------|---------|

(単位：億円)

| 基準日        | 未使用コミット金額 | 払込額   | 分配額 | NAV*  | 累計損益  | TVPI |
|------------|-----------|-------|-----|-------|-------|------|
| 2022年3月31日 | 600.0     | 600.0 | 0.0 | 597.3 | ▲ 2.7 | 1.00 |
| 2021年3月31日 | 961.2     | 238.8 | 0.0 | 234.2 | ▲ 4.6 | 0.98 |

\* NAVは個別投資案件の公正価値評価を反映したもの

### 払込・分配・NAV等の状況 (2022年3月末時点) (億円)



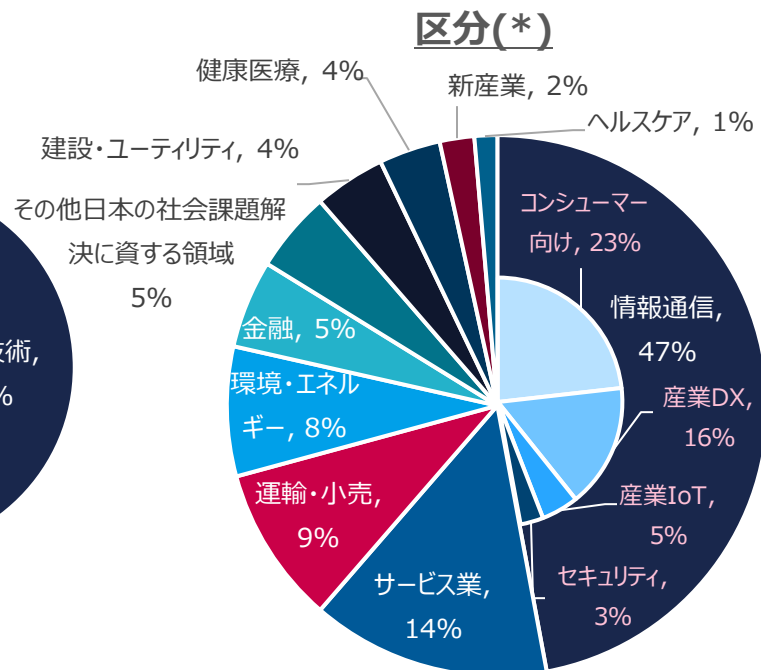
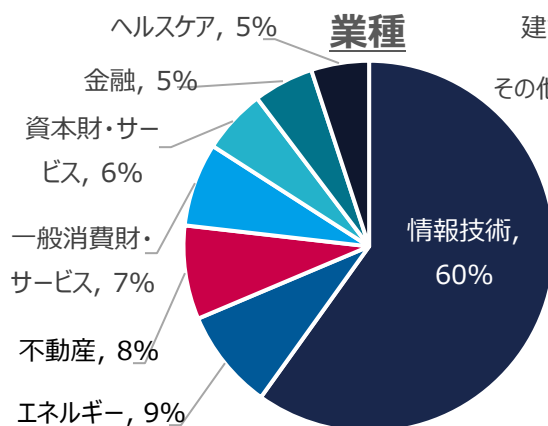
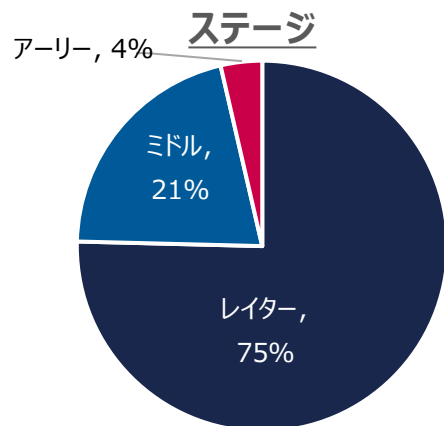
## 2. 個別投資案件の状況 (JIC持分)

(単位：億円)

| 基準日        | 投資件数 | 投資額   | 回収額 | NAV*  | 累計損益 | 倍率   |
|------------|------|-------|-----|-------|------|------|
| 2022年3月31日 | 36   | 508.2 | 0.0 | 517.2 | 8.9  | 1.02 |
| 2021年3月31日 | 17   | 169.8 | 0.0 | 170.0 | 0.2  | 1.00 |

\* NAVは個別投資案件の公正価値評価を反映したもの

### < 分散の状況 >



(注)分散の状況は各投資案件のNAVをベースに作成

(\*) 投資先企業が主に活動している産業区分 (投資により変革インパクトを生じる主な産業)

| 投資先                 | 案件公表日       | 投資額    |
|---------------------|-------------|--------|
| 株式会社iCARE           | 2020年12月8日  | 7億円    |
| アソビュー株式会社           | 2020年12月8日  | 5億円    |
| 株式会社ウフル             | 2020年12月8日  | 20億円   |
| 株式会社Quemix          | 2020年12月8日  | 3億円    |
| ココン株式会社             | 2020年12月8日  | 15.3億円 |
| 株式会社モンスター・ラボ        | 2020年12月8日  | 30億円   |
| 株式会社クラッソーネ          | 2020年12月14日 | 7億円    |
| ナイル株式会社             | 2021年1月18日  | 20.1億円 |
| ICHX TECH Pte. Ltd. | 2021年1月21日  | USD5m  |
| クレストホールディングス株式会社    | 2021年3月8日   | 5億円    |
| クオリプス株式会社           | 2021年3月16日  | 5億円    |
| WealthPark株式会社      | 2021年3月22日  | 25億円   |
| READYFOR株式会社        | 2021年3月29日  | 1.5億円  |
| 株式会社MFS             | 2021年3月31日  | 5億円    |
| TORANOTEC株式会社       | 2021年3月31日  | 5億円    |

| 投資先                             | 案件公表日       | 投資額           |
|---------------------------------|-------------|---------------|
| 株式会社ギフトパッド                      | 2021年4月12日  | 4億円           |
| 株式会社grooves                     | 2021年4月14日  | 5億円           |
| 株式会社Hacobu                      | 2021年4月19日  | 6億円           |
| クモノスコーポレーション株式会社                | 2021年7月5日   | 10億円          |
| AOSデータ株式会社                      | 2021年7月6日   | 8億円           |
| ジェイファーマ株式会社                     | 2021年7月30日  | 6億円           |
| 株式会社Sparty                      | 2021年8月13日  | 19億円          |
| 株式会社JX通信社                       | 2021年8月18日  | 5億円           |
| 株式会社ソーシャルインテリア (旧 株式会社subslife) | 2021年9月14日  | 7億円           |
| スマートニュース株式会社                    | 2021年9月16日  | 非公表           |
| 株式会社Housmart                    | 2021年10月8日  | 6億円           |
| 株式会社バカン                         | 2021年10月27日 | 5億円           |
| 株式会社モンスターラボホールディングス             | 2021年11月24日 | 30億円 (累計60億円) |
| ユーザーライク株式会社                     | 2022年1月14日  | 8億円           |
| 京都フュージョニアリング株式会社                | 2022年2月2日   | 3億円           |
| 株式会社KOMPEITO                    | 2022年3月3日   | 4億円           |
| matsuri technologies株式会社        | 2022年3月24日  | 17億円          |
| 株式会社QunaSys                     | 2022年3月28日  | 5億円           |
| アキュリスファーマ株式会社                   | 2022年3月28日  | 8億円           |
| AIQ株式会社                         | 2022年3月31日  | 10億円          |
| TORANOTEC株式会社                   | (前年度公表済)    | 10億円 (累計15億円) |

株式会社ギフトパッド



|         |  |
|---------|--|
| 投資決定公表日 | 2021年4月12日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>カタログギフト事業のDXに取り組み、法人向けにノベルティを活用したマーケティング分析、個人向けに中元・歳暮等、さらに地方の特産品の販売促進に向けてオンラインギフトシステムを提供</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>非公表</li></ul>  |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 電子商取引が進展する中で、日本のギフトや販促業界は紙ベースの取引が大きな割合を占めており、DX化が業界の課題
- 当社は同業界に対してオンラインのカタログシステムを提案。例えばギフトカタログ大手と連携する等、業界全体のDX化に貢献
- 全国自治体案件（地域通貨施策や観光誘致施策）を数多く受託。自治体のニーズに合わせたサービス設計を提供中。これら案件を通じて、全国地域経済の活性化に貢献

## 成長性

- 新たなシステム開発に着手することで、ギフト領域を超えたポイント/クーポンシステムのサービス提供の強化が可能
- システム提供を深化することで、ストック型ビジネスを拡充中

## 革新性

- 当社はギフト業界のみならず、当社サービスを導入する顧客企業のDX化に貢献する“ギフト/ポイント交換の仕組み”を提供
- region PAYに代表されるように地方自治体での利用頻度が高く、今後開発される新規サービスも、地方案件へのアドオンサービスとして利用可能であり、自治体へのサービス提供を通じて、地域経済活性化や地方創生に寄り添う事業を提供

## 株式会社grooves Grooves

|         |  |
|---------|--|
| 投資決定公表日 | 2021年4月12日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>人材紹介会社やヘッドハンティング会社をネットワーク化し、国内最大級の人材紹介プラットフォームを展開</li></ul>  |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>南都キャピタルパートナーズ株式会社</li><li>株式会社ベンチャーラボイノベーション</li><li>ニッセイ・キャピタル株式会社</li><li>株式会社広島ベンチャーキャピタル</li></ul> |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 地方への人材流動化とIT人材の流動化を解決できる2サービスがあり、社会及び産業課題の解決に資する投資

### 成長性

- 地方における企業プロモーションへの投資により、地銀と取引がある企業にエージェントが求職者を紹介するという新たな地方活性化に貢献
- IT人材/DX人材の不足が拡大する状況下で、国内のITエンジニアの転職市場は今後の成長性に期待

### 革新性

- 転職サイトでは人気企業に集まり地方の企業には集まりづらく、エージェントでは効率のよいマッチングに終始し地方や難易度の高い案件は敬遠されがちだが、当プラットフォームでは企業側が効率よく多くのエージェントにコンタクトができ、社会全体としての人材の最適配置に寄与
- 小規模のエージェントにとり企業開拓が課題であるところ、共通プラットフォームとして企業を紹介し、これまでのメールや電話でのやり取りから、プラットフォーム上でのやり取りが可能となることで、エージェント業のDX化にも貢献

株式会社Hacobu

## Hacobu

|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2021年4月19日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>企業間物流の最適化を目指したクラウドベースの物流情報統合プラットフォームを提供</li><li>倉庫や物流センター等におけるトラック予約受付サービスは導入実績があるほか、トラック等の動態管理サービス、流通資材モニタリングサービス、配送案件管理サービスなど、物流業界の課題に合わせた様々なSaaS型のソリューションを提供</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>NREGイノベーション1号投資事業有限責任組合</li><li>豊田通商株式会社</li><li>Logistics Innovation Fund投資事業有限責任組合</li><li>SMBC社会課題解決投資事業有限責任組合</li><li>株式会社ダイワロジテック</li><li>三井不動産株式会社</li></ul>        |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- バースの予約受付システムをはじめとする物流情報のSaaSプラットフォームを提供することによって、円滑な情報共有及びデータに基づく物流業務の改善を支援、企業間物流の業務効率化に貢献

### 成長性

- 本件投資で得た資金を元に更なる顧客獲得・機能開発を推し進めることによって、プラットフォームのネットワーク効果を最大限に発揮

### 革新性

- スタートアップとしてしがらみの無い存在であるHacobuが企業間物流業界全体を巻き込むプラットフォームを構築することによって、企業間物流を革新し、業務効率化・生産性向上を実現

## クモノスコーポレーション株式会社



|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2021年7月5日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>工事測量・外壁診断・構造物点検等の優れた技術を有しており、3次元レーザースキャナーを活用した空間測量を積極的に展開し、デジタルコンストラクションを推進しております。空間測量は建設・土木業界のみならず、様々な業界・業態でも活用され始めており、今後は3次元空間データの更なる利活用も期待</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>非公表</li></ul>   |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 建設・土木業界は特にDX化が遅れており、国土交通省が推進するi-Constructionの促進を通じて生産性向上及び労働集約型モデルからの脱却を目指す

### 成長性

- 3次元レーザースキャナと、AIを活用した自動点群処理ソフトウェアを開発することで、3次元点群データを誰でも容易に使えるような環境整備を行うことで、建設・土木業界以外にも展開可能

### 革新性

- 3次元点群データを建築・土木領域以外で活用する革新性があり、他業界への活用を推進していることに加え、AIを活用したデータプラットフォームを構築することで3Dレーザースキャナの活用幅を広げる点が革新的



## AOSデータ株式会社 **AOSDATA**

|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2021年7月6日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>データを安全に保管し、デジタル資産の活用と管理をサポートする「データアセットマネジメント」ソリューションを展開しており、特に自動クラウドバックアップサービスである「AOS BOX」は個人ユーザー90万人、法人ユーザー4,000社以上に活用</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>ICMG共創ファンド1号投資事業有限責任組合</li></ul>  |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 当社サービスはあらゆるデータを一元化してアップロードさせ、SaaSサービスをさらに利用しやすく、その先にデータ活用を通じてスピーディな方針転換やグローバル展開への対応に寄与
- 海外企業のデータセンターを使いながらもデータを暗号化し、国産企業としてデータを守る稀有なデジタルインフラ企業を育成

### 成長性

- サイバーセキュリティや事故・災害によるシステムトラブルやデータ喪失・流出などのリスクが高まっており、セキュリティ産業は今後さらに拡大の見込み
- クラウドストレージサービスも近年では法人需要を中心に市場が拡大

### 革新性

- データを吸い上げ、それらをセキュアに使いやすくするというテクノロジーに加え、SaaS企業間での情報のやり取りを可能にし、DXに使えるデータを最大化することを企図
- 国内におけるサーバープレイヤーが少ない中で、AWSを使うものの暗号化し国内で保護し、過去のSlerモデルに変わる国内プレイヤーを創出

## ジェイファーマ株式会社 J-Pharma

|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2021年7月30日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>細胞膜表面のトランスポーターを標的とした創薬ベンチャー企業であり、様々なトランスポーターを標的とした治療薬の研究開発を展開</li><li>近年は、Lタイプ・アミノ酸トランスポーター (LAT1) 阻害剤の研究開発に特化し、現在治験実施中のJPH203の胆道がんでの臨床開発及びOKY-034のすい臓がんでの臨床開発が進展</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>非公表</li></ul>   |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 企業の潜在力の掘り起こし、開発の成功確率を高めるための提案型投資であり、創薬ベンチャーの企業価値の底上げを目的とする投資
- 同社の薬剤は低分子化合物であり、昨今の新モダリティと比べて製造コストは低く、通常の抗がん剤と比べ、副作用がマイルドで、独自の作用機序が他の薬剤と競合しないことから、併用での展開可能性に期待
- 幅広いがん治療の標準的な治療薬の可能性や、長寿社会への貢献の期待大

### 成長性

- 本投資により、条件付き早期承認を得るための成功確率を上げるだけでなく、米国展開、2ndパイプライン準備等を早期に開始することができ、同社の成長に期するものと思料

### 革新性

- JPH203は、1st In Classの薬剤として新たな治療領域を開拓
- トランスポーター創薬実用化の道を切り開く取り組みであり、日本発の発明・発見を自ら商用化する取組

株式会社Sparty



|         |  |
|---------|--|
| 投資決定公表日 | 2021年8月13日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>パーソナライズD2Cを基軸にパーソナライズ化粧品、サービスを提供</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>株式会社アカツキ</li><li>株式会社丸井グループ 等</li></ul>    |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- パーソナライズ化をより容易にする環境を整備し、パーソナライズ化の仕組みの定着、発展を通じて、日本におけるSociety5.0で示される、快適で、活力のある質の高い生活の実現に貢献していくことを企図
- パーソナライズ化の仕組み構築は、注文に応じた商材提供、廃棄物の発生防止、削減にもつながり、環境に配慮した循環型社会実現にも貢献できると思料

## 成長性

- 本投資を通じて、パーソナライズ化の仕組みをベースに、事業基盤の拡大を図りパーソナライズを先導するテクノロジー企業としての継続収益を確保してさらなる成長を企図

## 革新性

- パーソナライズ化実現のため、バリューチェーン再構築により、販路及び価格コントロール、顧客データ確保して、多様な好みを反映、必要なときに必要なだけ提供するサービス設計は従来のビジネスプロセスに変革をもたらすインパクトがあるものと思料
- 本件出資を通じて、リアルとオンラインを融合させ、1人ひとりの悩みや理想に最適化された商品やサービスを楽しむパーソナライズ化の仕組みを構築し、必要なときに必要なだけ提供するサービス設計実現の一助となり、現在の産業構造の変革に期待

株式会社JX通信社



|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2021年8月18日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>SNSをはじめとする各種ビッグデータからリスク情報を検知・配信サービスや、報道価値の高いニュースをAIが速報するニュース速報アプリを主事業として展開</li></ul>  |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>あいおいニッセイ同和損害保険株式会社</li><li>S M B C 日興証券株式会社</li><li>グローバル・ブレイン株式会社</li><li>ABCドリームベンチャーズ株式会社</li><li>富士フイルムシステムサービス株式会社</li></ul> |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 自然災害等の増加/SNS等のビックデータ増加に伴い、政府・自治体・企業等はリスク対策の為に、信頼に足るデータをスピード感をもって入手する事が益々必要。より安心・安全な社会の構築に貢献
- 当社サービスの公共性が高く、国産、信頼性のある事業者の成長を支援

## 成長性

- 報道分野では寡占的なシェアを達成済みであり、非報道分野への拡販・事業グロースを企図
- UGC供給プラットフォームとして更なる事業成長を企図

## 革新性

- これまで十分に活用されてこなかったSNS等のビックデータが当社事業・技術により活用されることが期待
- Society 5.0 (データ駆動型社会) のビジョンでも、各種災害ビックデータをAIで分析することにより、より安全な避難・迅速な救助・最適な物資配送に貢献することが掲げられており、当社サービスはこれを補完・実現するものと思料

株式会社ソーシャルインテリア  
(旧社名subslife)

SOCIAL  
INTERIOR

|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2021年9月14日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>定価の範囲内の月額課金制で家具を提供するサービス</li><li>製造元の保証付きの二次流通プラットフォームサービスを提供</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>株式会社サイバーエージェント・キャピタル</li><li>みずほキャピタル株式会社</li></ul>                     |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- これまでの家具・家電等のインテリアの提供方法をアップデートし、使い手に取って最適な提供方法（買取だけでなく方法）を選ぶことで、循環型社会やSociety5.0へ貢献
- インテリアの所有から利用を促し、企業の資産管理やオフィス等のコストの最適化、生活者の生活変化に合わせたインテリアの多様な使い方をサポート
- インテリアの作り手においては、滞留在庫の最適化や二次流通市場における収益化ポイントの確保することができるため、産業構造のアップデートをサポート

## 成長性

- 本資金によるサービス活用の加速に加え、中期的なESG投資(上場時)銘柄としての評価を得るための事業の方向性のサポートを実施

## 革新性

- 従来のリース等のサービスでは対応しきれない金額帯や品目等まで対応し、多様化する空間ニーズへ対応が可能
- コロナ禍でより加速しているオフィスの在り方(所有から利用へ)をサポートするビジネスモデルを実現
- ビジネスモデルは特許を申請済み、長く使えるものを作ったメーカーが二次流通市場において、利益を享受できるビジネスモデル

スマートニュース株式会社



SmartNews

|         |  |
|---------|--|
| 投資決定公表日 | 2021年9月16日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>パブリッシャーと連携して世界中の膨大な情報を集積し、機械学習等の先端技術を活用した情報閲覧システムを構築することにより、利用者個別に発見を促す情報を配信するサービスをグローバルに展開</li></ul>  |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>Princeville Capital</li><li>Woodline Partners</li><li>ACA Investments</li><li>SMBCベンチャーキャピタル</li><li>Green Co-Invest Investment</li><li>Yamauchi-No.10 Family Office 等</li></ul> |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 日本のスタートアップエコシステムの課題であるユニコーン創出に必要な大規模グロスラウンド投資の成功事例を作ることで、グロスステージにおける呼び水効果を発揮し、エコシステムの課題を解決
- パブリッシャーと連携して世界中の膨大な情報を集積し、機械学習等の先端技術を活用した情報閲覧システムを構築することにより、利用者個別に発見を促す情報を配信することで、情報の偏向性という社会課題解決に寄与

## 成長性

- 強固なニュースユーザー基盤をもとに、利用者個別に発見を促す良質な情報/コンテンツを提供することにより、事業ドメインを拡充
- グローバルでの事業基盤を強化し、米国展開のスケールアップを行うことで、さらなる成長を企図

## 革新性

- 膨大な情報の中から個人の興味や関心に合致した情報のみを抽出するのではなく、興味や関心を広げうる情報を発見的に選別するアルゴリズムを特徴とした革新的な情報配信サービスを提供
- オンライン上での急激な情報の増加に起因して生じる情報の偏向性の解決の一助となり、産業構造に変革をもたらす

株式会社Housmart



|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2021年10月8日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>不動産 SaaS分野で不動産仲介会社向け営業支援サービスを提供</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>サファイア第一号投資事業有限責任組合 等</li></ul>            |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 日本は海外に比べ、デジタル化、情報の透明化等の問題があり不動産業界の生産性が低い。本件投資を通じて不動産分野のDXを推進して、生産性向上を支援
- 不動産取引に関するグッドデータの構築や、顧客への付加価値の高い知見を含むデータ等の収益化をより容易にする環境を整備し、その結果、不動産市場の透明性向上や生産性向上を支援することを企図

## 成長性

- 当社の独自アセットをベースに事業基盤の拡大、継続収益の確保によりさらなる事業成長を支援
- 既存顧客の維持獲得のみで一定程度の成長が期待

## 革新性

- 不動産関連情報の透明性確保、営業品質の確保により不動産取引やサービスに変革をもたらす可能性
- 不動産データ収益化の仕組み構築により、不動産市場の透明性向上、不動産業界の利便性向上につながり、持続可能な産業社会の実現の一助となり、現在の産業構造に変革をもたらす

## 株式会社バカン **VACAN**

|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2021年10月27日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>IoT、AI を活用して、人やモノのあらゆる混雑・空き情報を収集・解析し配信するサービスを提供。独自のAIアルゴリズムとセンサーやカメラなどを組み合わせることで、レストラン街やカフェ、オフィス、トイレ、観光地、投票所といった日常空間から、避難所などの非日常空間に至るまで、多様な領域の空き情報をリアルタイムに可視化</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>Scrum Ventures</li></ul>  |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- IoTに基づく次世代のDXソリューション、及びその高度な技術プラットフォームを構築し、Society 5.0に広く資する企業としての成長加速を支援
- IoTによる人とモノの繋がり、リアルタイム情報提供、多様なニーズへの拡張的開発等、Society5.0が提唱する人間中心の安心安全と効率性を実現

### 成長性

- 顧客からの引合いが増加しているDX事業の体制強化、及び同様に引合いが強いメディア事業スケール化のためのデバイス設置資金の確保により事業の更なる成長が期待

### 革新性

- IoT開発プラットフォームは、機能性と拡張性が優れており、それらを活かしたソリューション展開とIoTプラットフォームとしての台頭を促すものと思料
- 共同事業開発を進める大手事業会社も建設、交通、産業機器と幅広く、当社の技術により各ドメインの主要企業がIoTに基づくSociety5.0推進を加速



## 株式会社モンスターラボホールディングス (旧社名株式会社モンスター・ラボ)

## Monstarlab ::

|                |   |
|----------------|---|
| 投資決定公表日        | 2020年12月8日<br>2021年11月24日   |
| 事業概要           | <ul style="list-style-type: none"><li>情報通信 DX分野で、世界20の国と地域、32都市で戦略の策定からデザイン、開発、改善、運用までのDXに特化したコンサルティングサービス、プロダクトを提供</li></ul>   |
| 共同投資家 (公開情報のみ) | <ul style="list-style-type: none"><li>日本郵政キャピタル株式会社</li><li>電通デジタル投資事業有限責任組合</li><li>株式会社サーバーワークス</li><li>株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ</li><li>島根中央信用金庫</li><li>スカイライト コンサルティング株式会社 等</li></ul> |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 本件投資意義は、産業分野の各企業の稼ぐ力の向上に貢献する点にある。既存産業がDXを伴った新規事業開発による価値創造が求められている中で、当社は、顧客タッチポイントでのオペレーションをデジタル化するプロダクトを継続して開発、サービス提供を実施
- 各産業分野の顧客のデジタルを加速、各業界で産業×DXの取り組みを支援して、生産性向上の社会課題解決、産業分野の各企業の稼ぐ力の向上に貢献していくことを企図

### 成長性

- 今回の投資により事業のスケール化を企図。DXを担う日本発グローバルユニコーンを創出

### 革新性

- 世界20の国と地域、32都市のテクノロジーやコストを最適化したグローバルで最適なチームを組成したグローバルでのアジャイル開発を行うことで顧客企業のDX化を支援し、その結果として各企業のビジネスモデルの組替、変革が加速
- グローバルソーシングを活用した海外リソースとの連携により、産業構造変革を生み出す可能性

## ユーザーライク株式会社 **User Like**

|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2022年1月14日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>お花のサブスクリプションサービスを運営。2016年に国内初のお花のサブスクリプションサービスを展開以来、お花を飾る習慣のない層の潜在的なニーズを掘り起こし、会員数10万世帯超、花の累計出荷本数は1,500万本以上の国内最大のプレイヤーへと成長</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>ジャフコグループ株式会社</li><li>農林中金キャピタル株式会社</li></ul>  |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- サブスクモデルで、継続的に一定の量を流通することで、花卉産業の更なる変革に寄与。産業の流通構造を高度化、花卉の顧客体験を変えることで市場を創出 (Society5.0)
- 花卉業界が抱える課題解決に資する (ESG/SDG'sへの対応)

### 成長性

- 更なる顧客獲得・品質・オペレーション改善を推し進めることによって、プラットフォーム上の取引を拡大
- 国内初のお花のサブスク事業が成立することを検証済みであり、同事業のオーガニックの成長のみで収益構造が成り立つものと思料

### 革新性

- お花の定期便 (ポスト投函) により、日常に彩のある、毎日ちょっとした感動をお送りし続ける事業、顧客に受け入れられている事業は新規性に富む
- 花卉業界はプレイヤーが零細であり、オペレーションが高度化されていないことから、品質・オペレーションの洗練が、業界の変革に寄与
- 各プレイヤーとのフェアな取引を通じ、業界の発展 (市場創出・生産性向上) により、持続可能な花卉市場を形成

## 京都フュージョニアリング株式会社



|         |  |
|---------|--|
| 投資決定公表日 | 2022年2月2日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>カーボンニュートラル社会の実現に向けた先進技術の研究開発を行っており、特に、核融合炉の加熱装置や熱取出し装置、核融合プラントエンジニアリングにおいて、世界有数の技術力を保有</li></ul>           |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>Coral Capital</li><li>DBJキャピタル</li><li>JGC MIRAI Innovation Fund</li><li>ジャフコグループ</li><li>大和企業投資</li></ul> |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 核融合発電では核融合反応によって二酸化炭素を発生させることはなく、プラント製造過程を含めた排出原単位で比較しても化石燃料エネルギー源の数十分の1に止まり、脱炭素化・地球温暖化防止効果が期待

### 成長性

- 今後研究機関やスタートアップが実験炉から原型炉・実証炉の建設フェーズに移行する中で、当社提供製品のニーズは増大する見込み

### 革新性

- 日本および京都大学の核融合の関連研究の成果を活用、ITER計画等を含めて核融合領域での開発経験豊富なメンバーがチームアップすることによってグローバルに事業展開
- 核融合発電を実現することによって、エネルギー産業の構造を大幅に変革できる可能性が存在

株式会社KOMPEITO



|         |  |
|---------|--|
| 投資決定公表日 | 2022年3月3日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>サラダやカットフルーツを主力とする健康的な食事をオフィスに届ける事業を展開</li></ul>  |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>ニッセイ・キャピタル株式会社</li><li>インキュベイトファンド株式会社</li><li>株式会社DDホールディングスベンチャーキャピタル</li><li>株式会社中国銀行</li><li>京銀リース・キャピタル株式会社</li><li>とっとりキャピタル株式会社</li><li>NOBUNAGAキャピタルビレッジ株式会社</li></ul> |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 急速に少子高齢化が進む日本において、国民一人ひとりの健康寿命延伸の実現が社会課題
- 対象会社サービスは、「健康経営優良法人」を目指されている企業様はじめ、従業員への福利厚生サービスとして、人材採用・リテンションに貢献

## 成長性

- 対象会社は地方都市をターゲットに事業拡大中。地産地消、地方物流の増加という観点で、地域経済活性化を企図
- 今回の出資により、民間事業者からの更なる資金調達を実行

## 革新性

- 牛乳／新聞配達店と提携する独自のラストワンマイル物流を構築するユニークな取り組みで、顧客満足度の向上、営業施策やサプライチェーンの拡充において有用。競争力の源泉であり、他社との差別化に寄与
- 農家や農業従事者に対してスーパー、あるいはネット等を通じた一般消費者向けとも異なる、「オフィス」という新たな販路を提供
- 顧客開拓の一環として新たなビジネス機会を探索する地銀と連携し、ビジネスマッチング等新たな事業機会を提供

matsuri technologies株式会社



|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2022年3月24日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>空き家等の住宅インフラに対して独自に開発したテクノロジー、サービスを導入することにより、宿泊・短期賃貸の利用者にとってはオンライン・非対面の利用が可能であり、また、不動産運営会社にとっては物件価値を効率的に高めるソリューションを提供するサービスを手掛ける</li></ul> |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>RFIアドバイザーズ株式会社</li><li>三菱UFJキャピタル株式会社</li><li>SMBCベンチャーキャピタル株式会社</li><li>株式会社DGインキュベーション</li></ul>  |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- コロナ明けの旅行産業復活には民泊供給が不可欠な中、マンスリーマンションと民泊のハイブリッド運営可能な当社事業は、コロナ禍において同産業を持続可能とするサービス
- 民泊及びマンスリーマンションによる空室利用サービスを通じて、利用者はワーケーションによる豊かな職住環境が得られ、不動産保有者は休眠資産の有効活用が可能となり、また、社会的には人口減少に伴う空室増加問題の緩和に寄与

## 成長性

- 空室運営を民泊に頼ることなく事業を採算ラインに乗せることが可能。マンスリーでの運用によりダウンサイドを抑えつつ、コロナ明けのインバウンド旅行者増加による民泊需要拡大に伴うアップサイドが期待

## 革新性

- 民泊とマンスリーマンションのハイブリッドでの空室運営ノウハウを、ファンドスキームを通じた金融商品として組成
- 別荘を高付加価値化し資産運用する事業は、既存資源の有効活用、ワーケーションニーズに対応した新しいサービスとなりえ、観光客の呼び込みによる地方活性化、地方における空室問題に対するソリューションとなる可能性があると思料

株式会社QunaSys



|         |  |
|---------|--|
| 投資決定公表日 | 2022年3月28日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>化学領域を中心として、量子ゲート型量子コンピュータ上で実行可能なアルゴリズムやアプリケーションソフトウェアの開発</li><li>量子コンピュータの活用を目指す企業との共同研究や、量子計算クラウドサービスの提供</li></ul>  |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>ANRI</li><li>Global Brain</li><li>HPCシステムズ株式会社</li><li>MEイノベーションファンド</li><li>科学技術振興機構</li><li>新生企業投資</li><li>豊田通商</li><li>日本ゼオン</li><li>富士通ベンチャーズファンド</li><li>三菱UFJキャピタル</li></ul> |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 国内化学メーカーは光機能材料のような機能性化学品に強みを持っている企業が多く、量子コンピュータを使いこなすことで材料開発のプロセスにおいてグローバルに優位性を確保

## 成長性

- 世界的に量子コンピュータの実用化に向けた研究開発が進んでおり、量子コンピュータを活用するためのアルゴリズム・ソフトウェアのニーズは今後増大
- 海外スタートアップの資金調達動向に鑑みると今後も十分な資金供給が行われる可能性

## 革新性

- 量子コンピュータアルゴリズムの関連研究の成果を活用、量子コンピュータの化学領域での活用に関して知見の豊富なメンバーがチームアップすることによってグローバルに事業展開
- アルゴリズム・ソフトウェアの利用によって、化学産業における新規材料開発のプロセスを大幅に変革できる可能性

## アキュリスファーマ株式会社



|         |  |
|---------|--|
| 投資決定公表日 | 2022年3月28日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>神経・精神疾患領域における革新的な新薬の開発と商業化を推進</li><li>欧米諸国から革新的で優れた医薬品を導入し、開発・販売を担い、さらに疾患を取り巻くさまざまな課題に対するソリューションを提供</li></ul>  |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>Vision Pacific LifeSciences Capital I, II (DE) LLC</li><li>HBM Healthcare Investments</li><li>Global Founders Capital</li><li>三井住友トラスト・インベストメント</li><li>ANRI</li><li>三菱UFJキャピタル</li><li>Spiral Capital</li></ul> |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 欧米で上市されている日本未承認薬を日本に導入・開発することで、ドラッグラグを解消
- 神経・精神疾患領域では十分な治療法がない疾患も多いことから、患者のアンメットメディカルニーズが高く、健康長寿社会の実現に寄与

### 成長性

- 医薬品の開発に加え、Beyond the pill\*の取り組みの推進を企図
- AI やデジタル技術等を活用し、疾患に対する認識の向上、早期診断、個別化治療などの一連のプロセスにおいて、包括的なソリューションを提供

\*医薬品提供にとどまらないサービスやソリューションの提供

### 革新性

- 製薬業界でのデジタルトランスフォーメーションの先進的な事例の創出を目指す。デジタルツールを活用した疾患啓発やマーケティング活動を推進
- 欧米で上市されている薬剤を導入することで、患者に新たな治療法を提供
- 中長期的に自社での新薬研究開発も行い、日本の製薬業界の活性化を促進

AIQ株式会社



|         |   |
|---------|---|
| 投資決定公表日 | 2022年3月31日  |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>ソーシャルマーケティング SaaS分野で法人顧客の売上増に繋がる運用プランを自動生成するマーケティング運用支援システムをサービスとして提供</li></ul>                       |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>みずほキャピタル株式会社</li><li>SMBCベンチャーキャピタル株式会社</li><li>ファッション&amp;テクノロジー2号投資事業組合</li><li>TIS株式会社 等</li></ul> |

## 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- 時代の変化に合わせたマーケティングによる収益化の仕組みの定着、発展など、我が国のソーシャルネットワークコマースにおける新たなエコシステムの構築等を支援
- 当社は北海道拠点を有するなど地域経済の活性化への関心度が高く、顧客企業が地場のファンを獲得し、ファンと共に作り上げていく商材の創出を実現することが、結果として日本各地の地域経済の活性化につながり、魅力あるキャリアと経済的豊かさを地方で両立できる社会の実現という大きな目標に貢献できるものと思料

## 成長性

- 事業のさらなる成長を支援。独自アセットをベースに事業基盤の拡大、継続収益を確保してさらなる成長を企図

## 革新性

- 個人情報保護の強化の流れでサードパーティ・クッキー（閲覧履歴）はブラウザ上で利用できなくなる趨勢で、ソーシャルメディア起点のコマース全般のマーケティング支援ソリューションの仕組み構築は、法人顧客のマーケティングについて組織能力の向上、成長機会の創出、ひいては経済活性化につながり、持続可能な産業社会の実現の一助となり、現在の産業構造に変革をもたらす



## TORANOTECH株式会社 TORANOTECH

|         |  |
|---------|--|
| 投資決定公表日 | 2021年3月31日   |
| 事業概要    | <ul style="list-style-type: none"><li>少額から投資が行える資産運用サービス「トラノコ」の開発・提供</li></ul>   |
| 共同投資家   | <ul style="list-style-type: none"><li>セブン銀行</li><li>Aslead Capital</li><li>AGキャピタル</li><li>SUMISEI INNOVATION FUND (住友生命CVC)</li></ul> |

### 産業競争力の強化又は社会課題の解決

- より多くの生活者が資産形成を行う環境を整備し、我が国の長年の課題である“貯蓄から投資へ”を促進
- ひいてはより多くの生涯に渡った豊かな生活の実現を支援
- 実際に、これまで投資に馴染みが薄かった多くの層が「トラノコ」の投資信託を通じた資産形成を開始

### 成長性

- 日々の買い物データから算出されるおつりによる投資や様々なポイントを投資に回せる機能等、従来の投資信託への投資とは一線を画す資産運用サービスを提供することで、生活に密着した投資信託への投資を促進

### 革新性

- 少額から投資が行える資産運用アプリ「トラノコ」を開発・提供することで、投資信託への最低投資金額を大きく引き下げ、人々の生活により密着したサービス提供を通して新たな投資者層を開拓
- 「トラノコ」を通じた資産運用サービスの更なる拡充と普及拡大を行い、事業の更なるスケールアップを図ることで、日本独自のFintechの創造と社会実装を支援

## 5. JIC PEによる投資活動の状況

# (1) JIC PE概要①

|                      |   |
|----------------------|---|
| 投資決定公表日              | 2020年9月9日   |
| ファンド                 | ・ JIC PEファンド1 号投資事業有限責任組合 (PEF1)  |
| 無限責任組合員 (GP)         | ・ JICキャピタル株式会社 (JICキャピタル)   |
| 有限責任組合員 (LP)         | ・ 株式会社産業革新投資機構 (JIC)<br>・ PEF1 役職員投資事業有限責任組合 (PEF1 役職員組合)   |
| 主な投資対象・投資戦略          | <ul style="list-style-type: none"><li>・ Society 5.0の実現に向けた新規事業・新産業の創造や国内産業の国際競争力強化、業界の再編など、社会的にインパクトのある投資を目指す</li><li>・ 投資基準に基づき「社会的インパクト」「必要性・価値提供」「成長性・収益性」の観点から投資を検討</li><li>・ 投資テーマ・投資対象<ul style="list-style-type: none"><li>①バイアウト投資<br/>国内外企業の再編・統合を通じて、産業構造の改革及び国際競争力強化を目指す</li><li>②グロース投資<br/>国内外の高成長企業への出資により、日本発グローバルリーダーの創出及び国際競争力強化を目指す</li><li>③次世代社会基盤投資<br/>リスクマネーが不足する通信や再生エネルギー等の新たな社会基盤の構築等を企図した投資を行う</li></ul></li></ul> |
| JIC投資額<br>(コミットメント額) | 2,000億円 (別途JICとの共同投資ファンド2,000億円)  |
| 期間                   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 運営期間：10年</li><li>・ 投資期間：5年 (LP同意の場合には短縮可)</li><li>・ 運営期間延長：1年×2回まで (LP同意の場合)</li></ul>  |

|             |  |
|-------------|--|
| <b>政策目標</b> | <p>(1) 投資によって達成を目指す政策目標</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① Society5.0 に向けた新規事業の創造の推進</li><li>② 既存企業による産業や組織の枠を超えた事業再編の促進</li></ul> <p>(2) エコシステムに対する貢献</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 中立性を活かした事業再編の媒介役を担うことで、当該領域におけるリスクマネー活用の活性化を促す</li><li>• 国内外の有望な技術やビジネスモデルに対する投資を先導することで、当該領域に対する民間資金（企業、ファンド及び金融機関）の呼び水となる</li><li>• 民間リスクマネーの供給が薄い領域への投資を通じ、当該領域に強い投資プロフェッショナル人材層を育成する</li></ul> |
| <b>収益目標</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>• PEF1の収益目標は、ネットMoC1.5程度を目指す</li><li>• PEF1は、投資分野（バイアウト、グロース等）、投資期間など投資案件ごとに適するリターン/リスクを設定し、最低限としてPEF1のトータルとしての元本棄損を回避するようにしながらも、リターンの最大化を目指す</li></ul>  |

## ガバナンス

- 投資委員会：JICが毎回オブザーバー参加し、ファンドの投資基準との整合性を確認
- 投資ガイドライン：投資対象案件1件に対する累積投資金額が、400億円超となる投資等は、LPの承認が必要
- レポーティング：四半期毎に財務諸表、投資先企業概況等をJICに報告。
- 報酬設計：JICキャピタル役職員の報酬は、基本給（年俸）及び年度賞与で構成されており、当該合算額が、株式会社産業革新投資機構の業務執行取締役の報酬総額（年額報酬及び特別手当の合算額）の上限を超えない範囲で設計されている。  
※その他、ファンドの収益に連動した長期業績連動報酬制度を設けており、ファンド全体で投資元本（運営コストを含む）を上回る回収益が発生した場合に限り、回収益の2%の範囲内で、JICキャピタルの役職員が自己投資をした場合に限り、其々の自己投資額に応じた報酬を支給することとしている。

(2021年度の実績及び監査役の報酬等の額)

| 区分  | 支給人数 | 報酬等の額     | 摘要 |
|-----|------|-----------|----|
| 取締役 | 3人*  | 72,752千円* |    |
| 監査役 | 1人   | 7,000千円   |    |
| 計   | 4人   | 79,752千円  |    |

\*JIC取締役と兼職する取締役2名については、JICからの2021年度の報酬等の額を計上

## 管理報酬

- JICキャピタルの各年度の予算に基づき、LPの承認（出資額による過半数）により決定

# (2) 投資の状況 (PEF1運用報告)

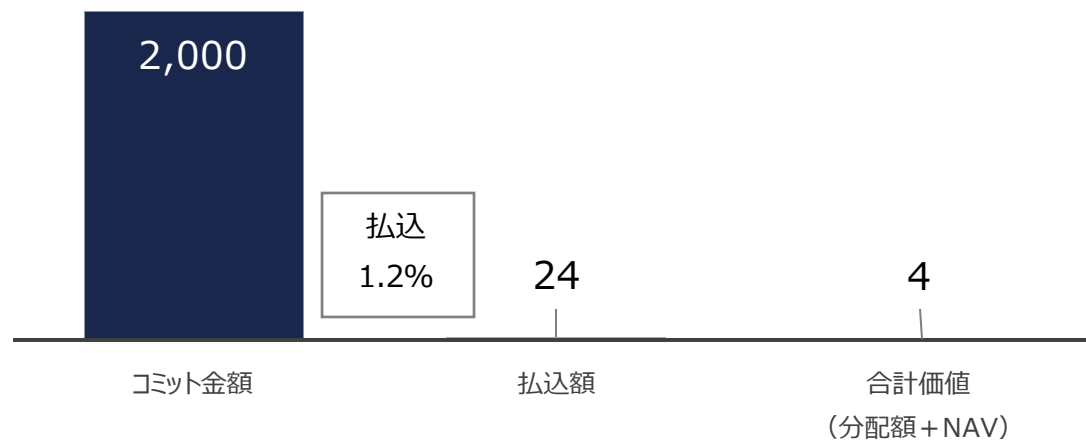
## 1. ファンドの状況

|       |             |        |         |
|-------|-------------|--------|---------|
| コミット日 | 2020年11月16日 | コミット金額 | 2,000億円 |
|-------|-------------|--------|---------|

(単位：億円)

| 基準日        | 未使用コミット金額 | 払込額  | 分配額 | NAV | 累計損益   | TVPI |
|------------|-----------|------|-----|-----|--------|------|
| 2022年3月31日 | 1,975.6   | 24.4 | 0.0 | 3.9 | ▲ 20.5 | 0.16 |
| 2021年3月31日 | 1,984.0   | 16.0 | 0.0 | 6.2 | ▲ 9.8  | 0.39 |

### 払込・分配・NAV等の状況 (2022年3月末時点) (億円)





**JAPAN INVESTMENT CORPORATION**